

鳥屋の養専寺でありがたく雨宿り



内匠へ向かう山道の一部は木を使って舗装されていた



「内匠」を紹介する九州自然歩道の看板

あるこ!

九州自然歩道の旅 ③

福島 優



前回(1月20日付)は、全長約3千キロの「九州自然歩道」で、大分県中津市耶馬溪町の木ノ子から山移までの歩き旅でした。今月は、道の駅「童話の里くす」方面へ歩を進めます。

山移—湯の森くす

神社に泊めてもらった翌朝は、気持ちよく目覚め、テントを撤収して出発準備をしていると天気予報通り雨が降ってきました。レインスーツを着てザックカバーを付け、気合を入れて、さあ出発! しかし歩き始めて500ほどで雨が上がり、少

「内匠」の名に歴史思う

し拍子抜けしました。でも、晴れそうにはない空模様です。山移からは百谷地区を通り、同県玖珠町に入って鳥屋地区へと歩いて行きます。この道は、スギやヒノキの雑木林を抜けるザ・車道という感じでしたが、細かいアップダウンやクネクネクネが続ぎ、なかなかハード。でも、少し古くなっているもの

は、木を使って舗装されていて、歩いていてワクワクもしました。「内匠」という地区ですが、見つけた九州自然歩道の案内板に、こう書かれていました。「古代、優れた宇佐文化を背後にもち、豊前(中津)から玖珠を抜け阿蘇・肥後(熊本)に至る交通の要路であって、優れ

の一定間隔で自然歩道の看板が立っていました。途中から、またポツリポツリ。鳥屋で本降りになってきました。お昼も兼ねて鳥屋にある養専寺の門で休憩。何となく、芥川龍之介の小説「羅生門」の雨宿りの場面を思い浮かべたりしましたが、もちろん驚くようなことは起こりません。荷物の配達人さんや近くのおばあちゃんが行き交うのを眺めながら、ぼんやり過ごしました。「鳥屋を越えて、内匠に行く」と温泉があるよ」と山移の方が教えてくれたので、休憩の後は、それを楽しみに雨の中を進みます。でも、鳥屋から先は山道で、ドロドロのぬかるみを進むのは一苦勞。でも、この山道の一部

た技能文化が持ち込まれて起こった地名かもしれません」

また、歩いてきた九州自然歩道は、古くから使われていた主要街道の一部だったことも紹介されていました。こんなふうに、往年の人々が生活道として使っていたものをつなげて九州自然歩道が成り立っているのだなとあらためて感じました。

内匠から1時間ほどでなんと「湯の森くす」に到着! 「さっ、お風呂入ろう!」と思ったら「定休日」の看板が…。ここぞという時に、なぜか定休日などに引っかけやすい体質…。なんですよね。残念。仕方なく、雨も上がったので、ぬれて汚れた靴の手入れをします。すぐには乾かないので、休憩を兼ねて心急